

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

(小学校5年)

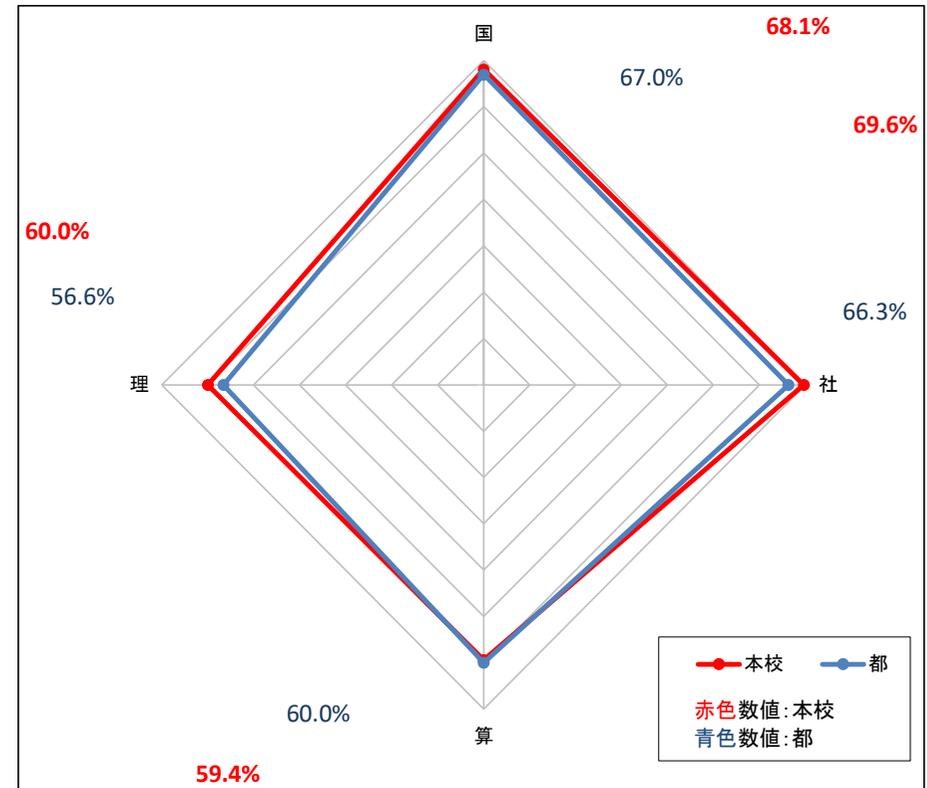
#REF!

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	67.1%	75.2%	64.9%	67.8%	68.1%
都との差	1.2	4.3	-2.2	1.9	1.1

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	68.8%	66.2%	79.4%	69.6%
都との差	5.7	-0.3	9.6	3.3

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形について の技能	数量や図形について の知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	51.2%	64.1%	61.0%	59.4%
都との差	4.8	-1.1	-6.8	-0.6

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象について の知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	56.4%	65.2%	60.5%	60.0%
都との差	3.5	-1.2	5.5	3.4



《都との比較にみる本校の状況》

＜国語＞正答率は、都平均から0.5ポイント上回った。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」については、都平均より1～5ポイント程度上回った。一方、「読むこと」については、都平均から2.5ポイント下回った。

＜社会＞正答率は、都平均から2.9ポイント上回った。特に、「思考・判断・表現」が4.3ポイント、「知識・理解」が8.8ポイント上回った。一方、「技能」が都の平均をわずかに0.6ポイント下回った。

＜算数＞正答率は、都平均から0.7ポイント下回った。観点別にみると「知識・理解」で都平均を6.6ポイント下回ったことから、特に「知識・理解」の向上を図っていくことが必要である。

＜理科＞正答率は、都平均から3.2ポイント上回った。観点別にみると、「思考・判断・表現」が3.4ポイント、「知識・理解」が4.5ポイント上回った。しかし、「技能」が2.8ポイント下回った。

《授業改善のポイント》

＜国語＞物語の中から登場人物の人柄や気持ちの変化などを読み取る際には、文章の中から自分の意見の根拠となる文章を探すことを指導していくことが大切である。直接的な表現だけでなく、比喩や倒置法、体言止めなど様々な表現方法にも着目させていく。

＜社会＞ごみと資源の流れのチャート式図を活用し、資料活用 の技能を問う問題ができるようにしていく必要がある。表やグラフ以外の資料の読み取りの活用場面を意図的に設定するなどして、児童が資料の使い方に慣れるように繰り返し指導を行っていく。

＜算数＞「知識・理解」の低下については、特に四角形の特徴を説明する問題の正答率が37.8%～39.2%と低かったことが原因だと考える。学期末・学年末の授業で、復習問題として取り扱い、学力の向上を図っていく。

＜理科＞実験器具の技能を確実に習得するために、繰り返し操作をさせる指導を充実させていく。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・個別の結果を個人面談で家庭に知らせ、生活習慣の見直しなど、協力を依頼する。
- ・どの教科も、学校の授業だけでは学習内容を十分に習得することは難しい。また、1年生からの学びの積み重ねがなければ、学習意欲にも影響が出てくる。これらのことを学校だよりや学校HP、保護者会などで各家庭に伝え、協力を呼び掛ける。
- ・「五葛西ルール」の中に家庭学習の時間の目安を示し、家庭への啓発を行う。
- ・「家庭ルール」の振り返りを学期ごとに行い、生活習慣の改善を家庭にお願いする。